

漢方薬治療の実際（前編）

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



漢方薬治療について今回と次回の2回にわたりお話します。私は漢方専門医ではありませんし、西洋薬を中心とした標準的な診療を心掛けていますが、患者さんや症状によっては、漢方薬の方が有効であることも経験するため、必要に応じて治療に取り入れています。

当院での最近1年間の漢方薬の使用状況を調べてみました。使用した漢方薬は42種類で、837人の患者さんに処方していました。処方量が多かった漢方薬とその改善症状は、1) 補中益気湯（体力低下、食欲不振）、2) 大建中湯（便秘、腹部膨満）、3) 半夏厚朴湯（喉のつかえ、動悸）でした。処方人数では、1) 麻黄湯（インフルエンザ等の高熱）、2) 補中益気湯、3) 五苓散（むくみ、めまい、嘔吐下痢）でした

漢方薬が西洋薬より有効と思われる症状の代表例として、こむら返りがあります。夜に足がつって痛くてたまらない、そういった症状には芍薬甘草湯が有効です。漢方薬というとすぐには効かない印象があるかもしれませんが、こむら返りの際に服用すると、速やかに症状を改善してくれます。

しかし、安全と思われがちな漢方薬にもまれに副作用を生じることがあります。例えば先ほどのこむら返りに有効な芍薬甘草湯は、甘草という生薬を多く含むため、毎日3回服用すると、血液中のカリウムが低下しやすくなります。日頃はあまり問題になりませんが、嘔吐・下痢や体調不良が重なると、カリウムがさらに低下するため、不整脈や血圧上昇、むくみといった副作用を生じることがあり、注意が必要です。

漢方薬も症状や体質にあった薬を選択し、副作用の心配がないか、医師に管理してもらうことが大事だと思います。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000